

平成30年度計画の点検・評価の結果について（総括）

令和元年5月10日
大学評価専門委員会
委員長 荒殿 誠

大学評価専門委員会では、平成30年度計画の実施状況の確認と、今後の中期計画の達成及び内部質保証の実現に向けた取組の推進に資するため、各年度計画の実施主体による自己点検・評価の結果について確認した。

教員の専門的な知見を必要とする教育・研究・社会連携・グローバル化に加え、業務運営に関する年度計画についても重点的に進捗状況を確認するため、本委員会の下に分科会を設置し、主に中期目標・中期計画の達成に向けた観点から、各年度計画の実施状況を確認した。

この結果、全般的には順調に進捗しており、全ての年度計画について、十分に実施している、または年度計画を上回って実施していることを確認した。

しかしながら、記載内容や根拠資料が不十分または過剰である、課題や長所が適切に整理されていないなど、改善の余地がある年度計画も見られるため、分科会で指摘された点は、今年度の取組に際しても留意いただきたい。

また、令和2年度は、第3期中期目標期間の4年目終了時の法人評価を受審するが、本評価では「中期目標期間終了時に見込まれる業務の実績」を含めて評価が実施されること、また、この評価による結果が、第4期中期目標期間の運営費交付金の配分等に活用される予定であることから、今年度を目途に中期計画の達成または十分な成果をあげることを意識し、自己点検・評価を実施いただきたい。

詳細については、分科会毎にまとめた総括（別紙）により確認いただくこととし、共通する指摘事項のみを以下に挙げる。

記

(1) 記載内容について

- ・記載量については、昨年度の大学評価専門委員会において、十分かつ適切な分量で記載し、第三者に分かりやすい内容とすることを指摘した結果、今年度は十分な分量で記載された年度計画が増加している。しかし、一部の年度計画では記載量が過剰であるため、第三者に分かりやすい内容としつつも簡潔になるよう記載いただきたい。一方、記載内容や根拠資料の提示が不十分である年度計画も見られるため、引き続き、十分かつ適切な分量で記載し、第三者に分かりやすい内容とすることを意識していただきたい。

(2) 自己評定「IV」について

- ・現時点でも取組が十分に実施され、今後の実施状況により自己評定を「IV」とすることが期待される年度計画もあるため、次年度計画においても引き続き状況を検証いただきたい。
- ・自己評定を「IV」とする場合は、第三者にわかりやすい内容となるよう、当初の想定がどれほどだったかを明示し、評定「IV」の根拠となる十分な記述と具体的な成果を示していただきたい。

(3) 適切な資料の添付について

- ・根拠資料は概ね適切に添付されていたが、一部の年度計画では、本文と資料の対応が不明確なものや、必要な資料が添付されていないものが見られるため、年度計画の実施状況を具体的に示すためにも、必要な根拠資料を適切に添付いただきたい。

以上

大学評価専門委員会第1分科会における平成30年度計画の点検・評価（総括）
（教育等に関する年度計画）

大学評価専門委員会第1分科会長

鳥越 恒

1. 分科会構成員

阿部 芳久 教授（比較社会文化研究院）、釣本 敏樹 教授（理学研究院）、
鳥越 恒 教授（分科会長、工学研究院）、朝廣 和夫 准教授（芸術工学研究院）、
渡辺 幸信 教授（総合理工学研究院）、久米 篤 教授（農学研究院）、
小湊 卓夫 准教授（基幹教育院）、馬場 健史 教授（生体防御医学研究所）、
岡村 耕二 教授（情報基盤研究開発センター）、
藤井 都百 准教授（インスティテューショナル・リサーチ室）

2. 開催日時・会場

平成31年4月15日（月） 14:00～16:00・I2CNER ホール A・B

3. 担当分野

主に教育や学術情報基盤に関する年度計画（1-1～10-3、33-1～36-1）

4. 概要

「平成30年度計画の自己点検・評価（年度末）の確認について」（平成31年1月9日付け大学評価専門委員会決定）に基づき、第1分科会では平成30年度の年度計画のうち上記担当分野に関する年度計画について、主に中期目標・中期計画の達成に向けた観点等から実施状況を確認した。

いくつかの年度計画において、取組の記載内容や根拠資料の提示が不十分であるもの、課題や長所、自己判定Ⅳの理由が不明確であるなど、改善の余地があるものも見受けられたが、全般的には順調に進捗しており、全ての年度計画について、十分に実施している、または計画を上回って実施していることを確認した。

5. 主な意見・指摘事項等

（1）共通の意見・指摘事項

1) 記載方法等について

- ・ 課題や長所、自己判定Ⅳの理由について、なぜ課題（長所、自己判定Ⅳ）と言えるのか不明確な年度計画があるため、背景や理由を記述するなど、第三者に分かりやすい記述を心がけていただきたい。
- ・ 記述内容と根拠資料との対応関係を整理するとともに、年度計画の実施状況を具体的に示す必要があるため、必要な根拠資料を適切に添付いただきたい。

2) 実施状況について

- ・現時点でも取組が十分に実施され、今後の実施状況により自己評定を「IV」とすることが期待される年度計画もあるため、次年度計画においても引き続き状況を検証いただきたい。
- ・中期目標期間の4年目終了時（令和2年度）には「中期目標期間終了時に見込まれる業務の実績」について評価を受けることから、今年度を目途に中期計画の達成または十分な成果をあげることを意識していただきたい。

(2) 主な個別意見・指摘事項

- （中期計画1）「3ポリシーの見直し」について、年度計画に「各学部等による～3ポリシーの見直し」とあるにもかかわらず、実施状況が「工学部・工学府の3ポリシーの見直し」のみである。実施状況が年度計画で立てられている内容よりも限定的とならないよう、計画を立てる際も留意していただきたい。
- （中期計画2）M2B システムを少人数クラスに導入するなど検討しているとのことだが、用途が広がり成果が出れば、次年度はIVとすることも可能と思われる。次年度計画においても引き続き状況を検証いただきたい。
- （中期計画4）ダブル・ディグリーは実施状況から十分取り組まれていると判断できるが、ジョイント・ディグリーについては実績が無い状況である。ジョイント・ディグリーについても中期計画にあげられているため、4年目終了時評価に向けて情報を収集し、取組を検証いただきたい。
- （中期計画7 自己評定「IV」あり）「教育改革プロジェクトの実施」について、「IV」と判断した理由が補助金獲得のみの記述であったが、今回の分科会において、補助金の獲得により事業や教育プログラムの拡大が実現したことが把握できたため、それらを追記いただきたい。

「新たなTA制度の構築」については、教員への支援により得られた成果や、学生の教育実績が向上すれば、次年度はIVとすることも可能と思われる。次年度計画においても引き続き状況を検証いただきたい。
- （中期計画10）年度計画で「検証」「分析」とあるものの、実施状況の記述を見ても何のために検証、分析するのかの説明が無いため、それらを踏まえて記載いただくと、評価の観点からも分かりやすい。
- （中期計画35 自己評定「IV」あり）「図書館の伊都キャンパス移転」について、「IV」

と判断した理由に移転経費の節減があげられているが、年度計画の「移転完了、伊都キャンパスの図書館のサービス開始」に照らすと、それ以外の取組、成果も「IV」と判断した理由になるので、追記が必要と思われる。

以上

大学評価専門委員会第2分科会における平成30年度計画の点検・評価（総括）
（研究等に関する年度計画）

大学評価専門委員会第2分科会長

西村英紀

1. 分科会構成員

木村 拓也 准教授（人間環境学研究院）、田中 孝男 教授（法学研究院）、
大西 俊郎 教授（経済学研究院）、岡本 太助 准教授（言語文化研究院）、
西村 英紀 教授（分科会長、歯学研究院）、實松 豊 准教授（システム情報科学研究院）、
吉田 茂雄 教授（応用力学研究所）、吉澤 一成 教授（先導物質化学研究所）、
小磯 深幸 教授（マス・フォア・インダストリ研究所）、藤井 都百 准教授（インスティテューショナル・リサーチ室）

2. 開催日時・会場

平成31年4月17日（水）10:00～12:00（伊都地区 椎木講堂1階大会議室）

3. 担当分野

主に研究や社会連携、グローバル化に関する年度計画（11～26番）

4. 概要

「平成30年度計画の自己点検・評価（年度末）の確認について」（平成31年1月9日付け大学評価専門委員会決定）に基づき、第2分科会では平成30年度の年度計画のうち上記担当分野に関する年度計画について、主に中期目標・中期計画の達成に向けた観点等から実施状況を確認した。

いくつかの年度計画において、取組の記載内容や根拠資料の提示が不十分、課題や長所が不明確、自己判定IVの理由が乏しいなど、改善の余地があるものも見られるが、全般的には順調に進捗しており、全ての年度計画について、十分に実施している、または計画を上回って実施していることを確認した。

5. 主な意見・指摘事項等

（1）共通の意見・指摘事項

1) 記載方法等について

- ・年度計画の実施状況を具体的に示す必要があるため、必要な根拠資料を適切に添付いただきたい。

2) 実施状況について

- ・成果指標にあることは、実施状況を記載いただきたい。
- ・現時点でも取組が十分に実施され、今後の実施状況により自己評定を「IV」とすることが期待される年度計画もあるため、次年度計画においても引き続き状況を検証

いただきたい。

- 中期目標期間の4年目終了時（令和2年度）には「中期目標期間終了時に見込まれる業務の実績」について評価を受けることから、今年度を目途に中期計画の達成または十分な成果をあげることを意識していただきたい。

（2）主な個別意見・指摘事項

- （中期計画12）「TOP100 先導枠の実施」について、「(フォーラムは) 大変な好評を博した」という表現が、やや叙述的と思われるため、具体的な状況を記載いただきたい。
- （中期計画15 自己評定「IV」あり）「IV」と判断した根拠を分かりやすく、アピールできるように記載いただきたい。
- （中期計画16）「I2CNERの機能強化」について、実施状況からも期待以上の成果があげられていることが確認でき、特に論文数の増加やWPIのh-indexの上昇も見られることから、評定を「III」から「IV」としてはいかがか。
→本件は、論文数の増加やh-indexの上昇等は見られるものの、年度計画の「他部署や海外機関との連携」に伴う想定以上の成果は得られていないとのことであったため、担当部署との意見を踏まえ、評定は当初の申告どおり「III」とした。
- （中期計画17 自己評定「IV」あり）「URAに関する取組」について、「IV」と判断した理由として、当初の想定がどれほどだったか等追記するなど、より詳細に記載いただきたい。
- （中期計画17、18）長所は遠慮することなくもっと記載いただきたい。
- （中期計画23）「途上国の人材育成推進」について、BJI2（バングラディシュ・日本国際工学院プロジェクト）、MJIIT（マレーシア日本国際工科学院）、E-JUST（エジプト・日本科学技術大学）の実施状況について、具体的な取組や分析内容を追記いただきたい。

以上

大学評価専門委員会第3分科会における平成30年度計画の点検・評価（総括）
（業務運営に関する年度計画）

大学評価専門委員会第3分科会長

松山 倫也

1. 分科会構成員

上山 あゆみ 教授（人文科学研究院）、増田 弘毅 教授（数理学研究院）、
池田 典昭 教授（医学研究院）、植田 正 教授（薬学研究院）、
松山 倫也 副理事（分科会長、農学研究院）、
藤井 都百 准教授（インスティテューショナル・リサーチ室）、小代 哲也 企画部長、
後藤 成雅 研究・産学官連携推進部長、川原 弘一 学務部長

2. 開催日時・会場

平成31年4月23日（火） 13:30～16:00（I2CNER ホールA・B）

3. 担当分野

業務運営（業務改善・財務改善・施設整備等）に関する年度計画（37～57番）

4. 概要

「平成30年度計画の自己点検・評価（年度末）の確認について」（平成31年1月9日付け大学評価専門委員会決定）に基づき、第3分科会では平成30年度の年度計画のうち上記担当分野に関する年度計画について、主に中期目標・中期計画の達成に向けた観点等から実施状況を確認した。

いくつかの年度計画において、記載内容や根拠資料の提示が不十分である一方で、記載量が過剰なものが見られる、課題や長所の分析が不十分であるなど、改善の余地があるものも見られたが、全般的には順調に進捗しており、全ての年度計画について、十分に実施している、または年度計画を上回って実施していることを確認した。

5. 主な意見・指摘事項等

（1）共通の意見・指摘事項

1) 記載方法等について

- ・記載量については、昨年度の大学評価専門委員会において、十分かつ適切な分量で記載し、第三者に分かりやすい内容とすることを指摘した結果、今年度は十分な分量で記載された年度計画が増加している。しかし、一部の年度計画では記載量が過剰であるため、第三者に分かりやすい内容としつつも簡潔になるよう記載いただきたい。

2) 実施状況について

- ・「課題」や「長所」の記載がない年度計画が見られるが、取組の過程で判明した課題（長所）を十分認識し、その課題解決（長所伸長）への道筋を検討・実施していくことが、内部質保証の実現のためには重要である。
- ・中期目標期間の4年目終了時（令和2年度）には「中期目標期間終了時に見込まれる業務の実績」について評価を受けることから、今年度を目途に中期計画の達成または十分な成果をあげることを意識していただきたい。

(2) 主な個別意見・指摘事項

- （中期計画39）「課題」や「長所」の記載がない、あるいは不十分な年度計画が見られる。年度計画の取組の過程で判明した課題（長所）を十分認識し、その課題解決（長所伸長）のための道筋を検討・実施していくことが内部質保証の実現のためには重要である。
- （中期計画45 自己評定「IV」あり）記載内容は定量的なエビデンスも揃い明確で丁寧であるが、全体の記載量が多いため、第三者に分かりやすい内容としつつも簡潔になるよう意識していただきたい。
- （中期計画52 自己評定「IV」あり）「施設使用制度の基準検討」について、本制度策定に向けての取組がどれほど画期的なものであったかをもう少し強調していただくと、IVとする理由の説得力が増すので、追記いただきたい。
- （中期計画54）課題や長所に記載されていることは、実施状況にも記載いただきたい。

6. その他

- 自己点検・評価の状況の確認について、委員より次のような意見があった。
- 年2回の実施主体による自己点検・評価は大変重要と思われるが、実施主体によっては年度計画の量も多いため、関係委員会での審議に際しても詳細な確認までできていない状況である。自己点検・評価のやり方で簡素化が図れないか、検討いただきたい。

以上